

2011年特別号

# 青峰同窓会会報



長太の大樟

## 会長挨拶

青峰同窓会会長  
小手川 智(42C卒)



東日本大震災が発生して3カ月がたちました。被害のあまりの大きさと悲惨さに今もって心が痛みます。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。地震の強さ、津波の破壊力の凄まじさ、加えて福島第一原発の崩壊が更に深刻な事態となって今日に至っております。政治は混沌とし、経済も今なお回復する気配が見えず、復旧、復興のシナリオが描けないのは一国民として悲しいことでもあります。早く元気な日本に戻ってほしいと思います。

同窓会会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて来年平成24年に母校鈴鹿工業高等専門が開校50周年を迎えます。まさに節目の時を迎えることとなります。様々な記念行事が開催されることとなります。学校と同窓会がともに協力して50周年に相応しいものにしたいと考えております。今回は同窓会の役割がこれまでと違って大きくなると思っております。同窓会員は今年7000名を超えました。記念行事には出来るだけ多くの同窓会員

の皆様に参加していただきたいと思っております。私のところに記念事業の企画立案に参加させてほしいと言われる同窓会員がすでに数名見えます。会員の皆様のご意見をお聞きして進めてまいります。

話は変わりますが前年度同窓会報にてご紹介しました鈴鹿高専青峰同窓会のホームページが完成いたしました。現在同窓会員の皆様には1年に1回の会報をお届けしておりますが、ホームページの開設によって必要に応じて、タイムリーに情報を発信させていただくことが出来ます。同窓会員相互の連絡にも利用していただけます。どうかご期待下さい。

これから夏を迎えます。各電力会社から節電の要請があります。これまでと異なる環境のなかでの生活になるかと存じます。同窓会員の皆様にはどうかこの夏を元気に乗り越えていただきますようお願いいたします。

<h2>contents</h2>	■ 会長挨拶 …………… 1	■ 退職教職員 …………… 4
	■ 卒業生便り …………… 2 40年ぶり“教室奪還” 41M 稲岡 丈夫	■ 青峰同窓会SNS …………… 8

卒業生便り

小雨の中、海岸べりで感慨深そうに海を見つめる数人の中年男のグループがいました。その海岸は、かつて、海岸線に沿って設けられた400メートルほどの直線コースを、まるで水槽の中を周回する金魚のごとく、ただひたすらに何往復か泳ぐだけという厳粛な夏の恒例授業である「水泳訓練」が行われた鼓が浦海水浴場です。

幸い私の場合、水泳は得意でしたが、山奥育ちの級友の中には何度も溺れかけた者もいたようで、今ならそんな授業が成立するかは疑問です。

「とても参加したいんだけど、病気の親がいて子供たちに迷惑をかけられないから、外出は無理なんだよ」「最近、妻の調子が心配なので、外泊はできないんだよ」「何とか、元の会社で仕事をさせてもらってる身では、1泊2日での休みなんてとても無理だよ」というのが欠席者の多くの反応でして、まさに時代の変化を感じさせられました。中には「地球の裏側(ニュージーランド)に住んでるから、ちょっと遠すぎるなあ、皆によろしく伝えとくれよ」というのもありました。

とにかく、そのような準備を経て、数年ぶりの41M同窓会が始まったのは、平成22年11月21日、日曜日午後のことです。

やがて、集合時間が迫り、誰からということなく、会場の舞子ヴィラの食堂には、コーヒー1杯で何時間も談笑する集団が出来上がってしまいました。談笑から外れたメンバーは、囲碁に興じています。後から着いた人は、衆人環視の中、頭を掻きながら談笑の輪に入ります。その時ばかりは囲碁のほうも手は止まり、皆の視線が彼の頭頂部に集中して、はて、誰だったっけ?という一瞬の微妙な沈黙があるという同級生独特の間合いは例外なくありましたが、その後の話しぶりや身振りで、すぐに素性は判明します。その後は、40年近くの時空を超えて、昔話や近況報告に他愛なく花を咲かせています。食堂には校歌が静かに流れていて、これまた雰囲気を感じ出しています。



■ 野村先生を囲んで

そんな談笑が数時間たつた後、宴会が始まり、皆は会場に移動したのですが、歩きながらでも談笑は止むことはありません。幹事からの開会挨拶に続いて、今は亡き級友に黙祷を捧げた後、恩師のスピーチがありました。恩師のほうもついつい昔の習性が出てか、なかなか話が止まりませんし、料理を前にした皆のほうも耳をすませて聞き入りますので、一向に箸が進みません。心配した幹事

40年ぶり“教室奪還”  
稲岡 丈夫 (46M卒)

は、時間制限を設けての輪番でのスピーチに切り替えますが、そんな時間制限も無力でした。ただ、酒屋を営んでいるH君からの差し入れの、何本もの逸品のポージョレー・ヌーヴォー君が登場した時だけは、主役の座を奪還して辛うじて皆の食事に先鞭をつけたのですが、そのワインもすぐに飲み干されてしまい、またもや料理はほとんど無視された状態でした。

還暦を迎えた皆の話の多くは、現役時代の話や苦勞話、近況紹介といったものでしたが、中には、その夏に孫は誕生したけど、その母親だったお子さん(彼の娘さん)のほうをその出産のトラブルで亡くされたという悲愴な話、しかも同窓会当日は、はるか福井県でのそのお孫さんの宮参りをしてから日本横断をして駆けつけてくれたという話もありました。お気の毒な体験談でしたが、彼にとって、皆に聞いてもらうことで少しでも気が安らいでくれたらいいのです。

N君などは、すっかりしたもので、退職金運用などの資産運用サービスの営業に余念がありません。しかし、それでも皆はかつての級友の話に顔きながら真顔で聞き入っています。するとN君のほうも脈ありと勘違いしたようで、ますます営業トークに熱が入るといふ具合です。

G君の話は、新幹線車両の開発秘話でして、なにしろ自身の迫真の体験談で、しかも機械工学の真髄に迫るものですから、皆もそれはそれは真剣に聞き入っていました。離婚歴あるK君からは、反語調での貴重な人生訓までいただいたものですし、M君の思い出話には、すかさず皆が補足説明する有様です。また、まるで学生時代の恨みを晴らすかのような軽妙な冗談話もあり、皆が学校生活を懐かしみつつ、湯水のごとく次から次へと話題が途切れることなく、また、同じ話題へと何度となく反復しながらも飽きることもなく、中年男の喜怒哀楽さまざまスピーチが延々続きました。

幹事から翌日のスペシャルイベントの趣向説明があり、宴会が終わったのは9時に達していました。スペシャルイベントのほうは皆の反応は鈍かったです。

用意したカラオケもとうとう出番はなく、皆が席を立った後には、半分近くの料理が手つかずのまま残っていました。しかし、その後もいくつかのグループに分かれて深夜のロビーやあちこちの部屋で談笑し、支配人からの何度かの苦情もありましたが、それでも肥大化する台風のごとくその勢いが衰えることはなく、深夜零時でもシーズンオフのその宿舎の灯りが消えることはありませんでした。まさに恐るべし高専パワーといったところです。

翌朝、流石にほとんど無言での朝食を済ませたメンバーは、数人が仕事の都合で離脱した以外は、級友の車に分乗して粛々と母校に向かいました。私たちの頃は、寮生活者と通学生がほぼ半々でした。小雨の中、スロースピードで進む9台の車列は、通学生が通ったバス道を、かつて彼らが歩んだ経路を忠実に辿って近鉄白子駅から旭ヶ丘に向かいました。まるでこれから吉良邸に打ち入る浪士のような。沿道からすれば、何事かと訝しんだことでしょう。最後尾の車などは、遅れまいと信号無視をしたかもわかりません。かつて旭ヶ丘バス停前

には、巨大な煙突をシンボルとする大東紡績という大きな工場がありました。多くは女子工員でしたので、風紀の点でその敷地はまるで刑務所のような高い塀で囲まれていましたから、さぞ通学生の多くが妄想を膨らませたことでしょう。しかし、そこも今は開放的な巨大なショッピングセンターに変貌していました。次いで、まるで敵軍の進軍を食い止める迷路のような官舎跡の鋭角の曲がり角を過ぎると、母校がわれわれ一行を迎えてくれました。事務棟前の駐車場に、まるで犯行現場に続々到着するパトカーの如く続々着いたメンバーの多くは、小雨の中、時計塔を見上げながら思わず佇んでいました。逆に、私は、そんな彼らを見下ろしつつ、階段を小走り気味に上がって総務課に赴いて来意を告げ、校内自由見学の了解をいただきました。「決行時間」まで、各人は、校内を自由に見学するため分散することになりました。ある者は、かつて運転免許取得費用を節約するため、自動車部というクラブ活動に励んだ自動車練習場に向かいました。今はそんな設備は消失していましたが、また、ある者は、図書館(正確にはマルチメディア棟と呼ぶそうです)でのパソコン設備の充実ぶりに驚いていました。私には、おそらく在校当時はなかったであろう、思い出多い青峰寮の裏手で小雨に洗われながらも、その黄色く色づくさまを誇るかのように聳え立つ銀杏並木の木立が、40年という時の流れと成長ぶりを象徴しているかのようでとても印象的でした。

私は、OB会の北村先生に先導していただき、機械科棟で5M担当の白井先生に挨拶をした後、武道館に足を運びました。武道館は、柔道・剣道の授業があり、弓道の練習場でもあります。その昔、「寒稽古」と称して、真冬の早朝に柔道や剣道の授業がありまして、私にとっては、まさに拷問に等しいものでした。その武道館の前には、小さな池がありまして何匹かの鯉が飼われていました。夏の暑い日、寝苦しいので、悪友のS君と二人で寮を抜け出して釣り糸を垂れていたものです。釣った鯉はすぐに池に放すのですが、同じ鯉がまた釣れてしまうという連続でした。しかし、そんな思い出がある池も私らの悪戯のせいでかすでに埋められていました。あとは、初めて目にする図書館での蔵書の豊富さに驚きました。在校時代にこれだけの設備や蔵書があれば、私の学業成績もちょっとは変わっていたことでしょう。



■ 5Mでの特別講義

当初、15分程度という話でしたが、徐々に一人一人と大先輩方が口を開き始め、気が付くと30分以上の時間となりました。就職を控えて期待と不安を感じていた5年生の学生たちにとって、企業で長年務めた方、家業を継いだ方、独立した方、といった様々な人生の選択肢があるということ、そして、何年経っても同窓生として、高専生として、人生のルーツを共有した仲間があるということが、如何に大切であるかを知ることができた貴重な機会でした。若輩者の私(42歳ですが)では伝えることができなかったでしょう。

機械工学科 白井 達也

やがて、決行時間が迫り、私は5Mの教室に向かったのですが、何と、級友メンバー全てが待機していました。ゆうべの説明では、メインイベントには無関心のようなのでしたから、驚きました。

10時35分、白井先生の「ロボット工学」の授業が始まりました。やがて一行は、吉良邸襲撃のごとく、無言のまま続々と教室に潜入して行きました。先頭は、もちろん私です。

何十年ぶりとなる教室は、天井からモニターTVが吊り下げられ、教師の講義さながらに教務情報を常時案内しています。教室の背面には小ぶりのロッカーが据え付けられていて、私ら一行を唾然とさせました。学生諸君からすれば、突如乱入してきたロボットならぬ中年男の集団に驚かれたことでしょう。まるで初めて都会に出てきた人みたいな感じで唾然と見とれていました。「攻撃目標」の学生の中には、私らにはとても想像すらできなかった女子学生も数名います。

皆がきょろきょろと教室内を見回す中、白井先生から学生諸君に向け、卒業生との懇談という趣旨説明がありまして、私を筆頭に進路思考についての体験談などを披露しました。同級生の中には、例の酒屋のH君もいましたので異色の経歴を披露したり、まるで校長先生みたいな風貌のM君の体験談などは、本職以上の貫禄がありました。もちろんここでも皆、話し出すとなかなか止まりません。

以前は無口だったH君までがとうとう話し出したのにはメンバーの皆が驚きました。また、相手の話を誘い出すのが上手いS君の話には、学生諸君のほうからの質問もありました。そんな風にして予定の時間を大幅に超過してしまいましたが、「襲撃」を終えて教室を退出する際には、奇妙な充実感がみなぎっていたようで、どの顔にも仇討本懐成就後みたいな満足感が溢れていました。

前夜の会場の風呂設備が貧弱でしたので、というか、風呂に入るのももどかしげに飲談に夢中になっていたもので、母校を後にした我々は、鈴鹿サーキットに移動して、思い思いにバイキング料理を堪能しながら次回の同窓会開催を約しつつ、露天風呂にて日頃の疲れを癒してから解散しました。食事時の最大の話題は、朝に所要で戦線離脱したN戦士の「風貌の変化」でした。彼は、学生時代はクラス一の小柄でしたが、昨日は、大柄な力士に変貌して登場したからです。露天風呂では、脇のT君などは、初恋の人だったかどうかは知りませんが、校内で仕事していた中学生時代の女子級友と数十年ぶりに偶然にも再会したために、小雨の中を思わず駆け寄ったというラヴストーリーを思い出したのか、瞑想にふけっていました。

皆の心の中には、この同窓会を誰よりも楽しみにしつつ闘病に励んでいた、今は亡き泉下のI君への弔意があったことは言うまでもありません。この同窓会が契機になったのでしょうか。かつてはそれほど会話をしたことがない級友の何人かより、初めて年賀状をいただいたことが、何よりも嬉しいことです。

H君、次回の同窓会にもワインを差し入れていただけるなら、幹事の確保をお願いします。

# 退職教職員

## 定年退職を迎えて

長くお世話になった鈴鹿高専を、この3月去ることになりました。昭和51年10月に大学院から、直接本校物理教室に赴任し、以後、34年間もお世話になりました。この間、教職員、学生の皆さんに励まされ、助けていただきここまでやってこられた様な気がします。深く感謝いたします。

現在1月、高専を去るという実感がわいてこないのが今の心境ですが、廊下や教室で学生と交わす何気ない会話、「あっ、先生が床屋へ行った」「たまには行くさ!」。黒板に書いた、人に引かれた犬の絵、直してもちっとも犬らしくならなくて学生と笑っていた昨日のこと、「今日の物理はよくわかったな」と言われ、来週はもっと解りやすくしなきゃと思った授業のこと、学生に励まされ、また励ましながらやってきた毎日の授業。そんな日常が、あと2、3カ月で終わってしまうと思うと、少しさびしさを覚える今日この頃です。

振り返ればいろいろなことがあり、きりがありません。浮かぶのは、若いころ、担任でクラスの学生と一緒に、いろいろなことで苦労したり迷ったり。2年生の沖縄の研修旅行で、ガイドさんの言葉に、学生が涙し、そんな学生の青春に巻き込まれ一緒に感動したり、楽しんだこと。そして3月のオリエンテーションが終わり、学生が去った教室で「一緒に過ごした学生が育っていったな」と感慨にふけったこと。私の青春でもありました。主任で北海道の研修旅行を先生方と一緒に考え計画し、あとで「すごく楽しかった」という言葉を聞いて嬉しかったこと……

この高専を去るに当たり、好き勝手なことを、2、3点書かせていただきたいと思います。

「大事な青春時代、目を輝かせ、生き生きとした楽しい学生生活を送ってほしい」。学生に関するいろいろな仕事をさせていただきましたが、赴任以来、こんな思いが、常に頭の中にあっただけに思っています。鈴鹿高専も徐々に変わってきて、最近10年くらいの学生をみると、高専祭を初めいろいろな場面で、また廊下ですれ違う学生

## 三十有余年に

1976年、当時本校の定年退職が制度化される過渡期で、予定されていた前任者の退官が遅れてしまい、年度途中での助手採用となりました。それ故の入学式での恒例の新任のご挨拶を申し上げることもなく、以来三十有余年、あっという間に退任のご挨拶をする秋となってしまいました。

さて、この間に社会情勢は徐々に移り変わっていききましたが、それに気付くのは何か目に見える変化があったときのように思われます。例えば、本校周辺にありました通信研修施設や紡織・紡績工場などが再開発事業で次第にその姿を変えていく……。本校に目を移しますと、それは低学年生の全寮制から任意寮への切替であり、入試での推薦制度の導入であります。そして、これらの変化が本校在任中のほぼ真ん中であつたことです。

この変化以前の前半期では、低学年生全員の入寮義務の存在が、本校の教育が高等学校とはまったく異なっているのだとの認識を、受験生や入学生に与えていたと思われまふ。入学希望者の中には全寮制が高いハードルに映ったかも知れませんが、本校の教育制度をよく理解した上での入学に繋がっていたことでしょう。

後半期になりますと、任意入寮制と推薦入試の実施により、本校

### 教養教育科 土田 和明



を見て、学生の生き生きとした姿、自主的に頑張っている姿を多く見かけるようになったように思い喜んでます。

学生の皆さんへ!!物理、数学、専門等の勉強に関して、問題ごとの解き方のパターンを覚えたり、暗記してテストでよい点をとることを考えすぎませんか?社会に出て出合う未知の問題に挑戦する力は自分の頭で考える力がないと生まれません。もっと自分の頭で考えましょう。

また、学生の皆さん、高専の5年間、いろいろなことに積極的にあってください。いろいろなこと、あるいは一つのことでもいい、何かに一生懸命挑戦し、努力してほしい。そんな中から自分の能力が発見でき、あるいは感動も生まれ、自分自身も成長する。高専の5年間で飛躍してください。迷ったり悩んだり、いろいろあると思いますが、乗り越えて充実した学生生活を送ってください。

鈴鹿高専の未来?高専の将来像?私は、比較的楽観的です(教育の複雑化という内容に近いことですが)。例えば、今、高専卒業の約半数の人が大学へ編入し修士課程まで行くわけですが、高校へ行き大学工学部から進んできた同じ24歳の学生と比較したとき、15歳から電気や化学等専門の実験等を学びながら、基礎の勉強をしてゆくという高専教育の原点は、18歳で初めて実験器具に手を触れる大学経由の学生に比べ、はっきり優位な点があると思います。高専生について、英語、計算力はやや劣る人もいるが、実験、卒研などに際し、てきぱきと進め、やる気があり、未知の問題に対する挑戦能力は高いというような評価を聞きます。この一番大事なところを大切に、伸ばせば鈴鹿高専の将来は明るいと思っています。

皆さんお世話になりました。今後の皆さまのご活躍をお祈りいたします。

### 生物応用化学科 杉山 利章



の専門分野を超えたところに興味を持っている多様な学生の入学が、それ以前に比べて、目立ってきているように感じられます。その後の学科改組による学科名変更も与って、所属の学科では女子学生が全体の半数ほどを占めるようにもなりました。

思えば、この三十有余年は良き時代であつたと述懐している次第であります。卒業研究としての「分析機器のための高感度・高選択性センサー」の開発や「バイオテクノロジーを利用した植物の形質転換」の研究、本校の卒業生である企業研究者との共同研究としての「生理活性物質の生体内への移行機構」の解明に向けて、卒研学生らの献身的な協力を得て実り多い研究成果を上げることができました。これからの第二ラウンドである「フィールドワーク」でも、同様の感慨が得られるよう頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、数々の楽しい思い出と暖かいご支援をいただきました教職員の皆様へ厚く御礼申し上げます。そして、鈴鹿高専の益々のご発展と皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

## 退職ごあいさつ

毎年3月が来るたびに諸先輩である教職員が本校を去られる時に、「ご苦労様でした」という言葉と共に別れを告げていた私ですが、この3月はとうとう送られる側になりました。創立間もない3学科(機械工学科・電気工学科・工業化学科)当時から微力ではありましたが機械工学科の一員として、多くの卒業生をはじめ在校生と一緒に無事にこの時期を迎えることが出来ました。その間、学生主事補、寮務主事補、図書館主事補、実習工場長などを担当しましたが、何と言っても思い出に残るのは学級担任やクラブ指導やロボコン指導です。幸いと皆さんから多くの相談を受けることが多く、その度あるごとに自分の知識も増やすことが出来ました。

鈴鹿高専は全国高専の中でも最も早く創設された1期校の一つです。過去に優秀な卒業生を送出し現在においても就職率100パーセントを維持出来ている教育システムは誇るべき本校の財産です。皆さんの頑張り様は本校を訪問される会社の就職担当の方々からいつも耳にすることが出来ます。卒業生の中には世界的に名前が売れている立派な技術者も多いのです。これも初代学校

## 定年を迎えて

思ったままに書いてみようと思います。昭和57年度1月に名古屋大学より鈴鹿工業高等専門学校の庶務課に異動してきました。前任の方が福井高専に異動されるので代わりに工業化学科に配属され、分析化学実験、無機化学実験を担当させていただくようになりました。

1月に本校に来たとき、名古屋大学では学生実験をしたことがなかったのを何をしていいかわからず長谷川先輩、太田先生、杉山先生、桑原先生、松田先生に色々質問をしたり教えてもらったりしてどうにか2月末までこなし、3月は実験がないため、高校でしたことがない実験を行ったり実験器具類の再確認をしていました。また実験中に学生から質問されたとき名前が出てこないで、学生の顔と名前を覚えようと、名札と顔を見比べながら必死で覚えようとしたがなかなか覚えられませんでした。今でも学生さんの顔は覚えているのに名前がなかなか出てこないのです。以前、先生の都合で出席を何回か取った時には比較的覚えられたのですが。

こういうこともありました。杉山研で輪講に参加させてもらった当初、助詞や助動詞の訳がなかなかかわからず、とんちんかん訳をしていたのを思い出します。その頃の卒研生がずらずらと訳しているのにこちらは立ち往生している状態でした。高校、大学の時に英語を正確

## 感謝とともに

平成16年度に規制緩和と競争原理を前提とした国立学校等の法人化によって、牧歌的な生活から、一転、まるで民営化された如く、仕事に追われる日々が続き、そのような環境の中で、あと何年経てば定年を迎えるのか?と人ごとのように思っていました。ついに現実となり、一抹の寂しさもある種の安堵感が交差して複雑な心境です。

高専生活30年ほどの間、嬉しかったこと、悲しかったことすべてが思い出深く、多くの先輩、同僚、後輩の方々からのご指導と励ま

### 機械工学科 富岡 巧



長である木村和郎先生が掲げられた「知徳体」一貫の全人教育が上手く皆さんに作用しエンジニアジェントルマンたる蕾が開いたものなのでしょう。

最近7代目となる高橋誠記校長が舵取りをやっておられ、ここ数年は産学官連携に力を入れ地域での重要な技術学校としての道を歩んでいます。そのため本校では学生と教職員が共に活動する技術プロジェクトがいくつか走っており、地元メディアはいつもこの事を報じています。私が20年間担当したロボコンプロジェクトも毎年大会に向けて頑張っており、最近では少し遠のいてしまった国技館を目指して再挑戦を仕掛けています。

ただ近況報告となってしまいましたが、私の知らない所でもっと多くの卒業生が活躍しておられることと思います。ぜひ在校生へも朗報を寄せて頂き、伝統ある鈴鹿高専を皆さんとともにこれからも支えていきたいと思ひます。それには、まずは健康維持です。お互いに頑張りましょう。

### 教育研究支援室 堀井 一夫



に訳す訓練をせず、感覚的に訳すことに慣れてきたからだと先生に注意されたこと、慣れてくるとどうにか論文の内容がつかめるようになりましたが、いまだに手元から英語の辞書が手放せません。外国人の会話を聞いていても単語が所々わかる程度でほとんど聞き取れずわからず困ります。英会話を習っておいたらよかつたなと思う昨今です。

こちらに来た当初は、三重大学に実験廃液の処理を依頼していました。業者にきてもらって大学の設備を使い、処理をしてもらうために出張していたときのことです。水銀の処理が済み、可燃性化合物の処理の最中、多量の塩素ガスが処理できず、小さい臭いが施設内に流れ出て来たこと、また、重金属の処理が終わったのに、処理水に水銀が混入して再度処理をお願いしたこともあります。三重大学に搬送する廃液の容器が重かつたなあ、でも楽しかったです。

昔のことをなつかしく思うようになると、こういう年になったと実感するこの頃です。

最後にあたり、ご指導をいただいた諸先輩方、先生方、教育研究支援室の皆様ありがとうございました。

### 総務課 末崎 富士子



しをいただいて、第一の人生のピリオドを打つことができることは、恵まれたことと感謝いたしております。

採用された当初は、高度成長の最盛期を過ぎバブルがはじけようとしていた頃で、産業界・高等教育機関・行政機関との連携には制限が設けられておりましたが、今や連携は必要不可欠であり、我々を取り巻く

教育環境は着実に多様化に向かっております。また、身近なところでは本校に隣接していた企業の跡地に大きなスーパーマーケットや住宅・マンションが建設され、NTTの跡地には、私立大学の移転等、地理的環境も大きく変化しております。辞めていく者の特権として、過去に担当した仕事の中から特に印象に残っているものについて少しお話をさせていただきます。

私は、学生と触れ合う機会の少ない課に配属されておりましたが、学生さんと一緒にアメリカ研修(オハイオ州立大学・ニューヨーク市・ワシントン市)の機会に恵まれました。メトロポリタン美術館・Moma美術館の見学、グランドゼロ(車窓から)を見ながら、自由の女神のあるリパティ島へ渡ったこと、ホワイトハウスを見てワシントンモニュメント前を通りスミソニアン博物館で一日を過ごしたこと等、Aまた、オハイオ州立大学での授業参加、大学施設見学、学生との交流等、この研修を通して学生さんと身近に話し合うことができ

たことは、素晴らしい思い出(学生さんに英語を勉強する動機付けになったことが感じられた。)となって今でも私の脳裏に深く刻まれています。

また、オハイオ州立大学からの教員招聘では、日本文化の紹介として「お茶会」を体験していただきましたが、皆様、熱心に理解しようと努めてくださいました。オハイオ州立大学の先生から、「では、Fujiko! 私が、Tea Ceremonyの代わりに次回は、Coffee Ceremony を紹介しましょう!」と言われたことが、とても印象的でした。

改めてふりかえってみますと、おかげさまで楽しい思い出ばかりがよみがえって参りますが、今日までご指導いただきました校長先生はじめ教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

最後に、皆様のご健康、ご活躍並びに本校のますますのご発展を心よりお祈りしまして、退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## ありがとうございました

昭和48年4月に採用され、38年があつという間に過ぎ去り、平成22年度末をもって定年退職を迎えることになりました。大過なく過ごすことができましたのも、教職員の皆様方に暖かくご支援をして頂いたお陰と心から感謝しております。

採用は、庶務課庶務係(現、総務課総務係)で、初代木村校長先生の秘書として着任しました。鈴鹿高専の創立10周年記念式典のあった次の年で、大学紛争が沈静化した頃です。採用時の面接で「学生運動をどう思いますか?」と質問されたことが印象に残っています。当時は学校も教職員も若く、創設期独特の新鮮な活気に満ちあふれていたように思います。

昭和48年当時には、女子学生が2人しかおらず、現在の職員宿舎内にある課外活動施設が全寮制の女子寮となっており、私はそこで2年間寮監としても勤務しました。

その間、2年生の研修旅行に女子学生の付き添いとして同行させて頂きました。

その時2年生だった、工業化学科(現、生物応用化学科)の長原先生と金属工学科(現、材料工学科)の江崎先生と一緒に研修旅行に行っておられ、今でも江崎先生とは「同級生ですよ!」と昔話をすることがあります。

## たくさんの元気をいただきました

12月に入り、退職される方にと「鈴風」の執筆依頼をいただきました。

気持ちの上では、「今年で退職で一す。」とさっぱりした気分で見られると思っていたら残念ながらおまぢがい。いざ「退職ですね。」と改めて言われると寂しさが胸一杯にひろがり、鈴鹿高専での思い出が走馬燈のように駆けめぐり、「あっ」と言う間にあの若かりし頃に逆戻り…

学生課教務係の時は、専攻科の創設に当たり、カリキュラム編成や学位授与機構への資料作成等、仕事は深夜におよぶ事もありました。また、新入生合宿研修や2年生の研修旅行等にも付添いさせて

### 総務課 奥野 光子



その後、庶務課・会計課・学生課・名古屋大学でお世話になりました。

38年の在任中、事務の環境もめまぐるしく変化し、採用当時は当然、パソコンなどはなく手書き、手計算の時代で、ゆったりと時間が流れていました。しかし、その後ワープロや計算機が導入され、事務のやり方や速度も画期的に変わり、今ではパソコンなしの事務処理は考えられない時代になりました。

また、平成16年には独立行政法人となり、特に会計処理は国の会計処理とは全く異なる企業会計が導入され、その対応に苦慮しました。財務会計システムや旅費システムの導入等、時代の流れについて行くのがやっとで、ふっと気がつくとなん年になっていました。これから先の人員削減・外部評価・仕事量の増加等、厳しい状況が懸念される中、比較的ゆったりとした時代を過ごさせて頂いたことは幸せであったと改めて皆様に感謝する次第です。

来年度からは、(年金状況も厳しいので)再雇用として再びお世話になります。引き続きよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

### 学生課 佐脇 満喜子



いただく機会に恵まれた事があり、緊張感一杯でしたが今となっては楽しい思い出となっています。

昼休みともなれば、大きな笑い声が響く体育館で、男子教職員に混じり仕事に負けない勢いでスポーツを楽しんでいました。「レシーブ、トス、スパイク」、皆さん察しがつきますよね。バレーボールです。我がチーム名は「オリーブ」。高専祭では地域のママさんバレー部、三重大学職員女子バレー部、本校学生による選抜チームと混じって対戦しました。参加賞はバレーボール部の「うどん」でした。おいしかったですよ。

さて、現在の仕事は、学生課入試係です。主な仕事の内容は中学生の皆さんが本校を受験していただけるような広報活動と入学試験(専攻科、第4学年の編入学、学科)の実施を担当しています。

入学試験の時期になると、毎年「ハラハラ、ドキドキ」本当に緊張します。ミスが起こらないよう細心の注意を払い「石橋をたたいて渡る。」をモットーに仕事をしています。今年も無事に終わられるよう頑張ります。

さて、鈴鹿高専でお世話になった歳月を指折り数えてみると、約30年間…「ほんとうにお世話になりました。」

鈴鹿高専では学生課の仕事が長く、多くの学生のみなさんの入学

から卒業まで何回となく接することができました。入学式では中学生の雰囲気漂う初々しい姿から、今まさに卒業式を終え堂々と胸を張り晴れ晴れとした姿を見るにつけ、心地よい気分と充実感を味わってまいりましたが、今年も私も卒業(退職)の年になってしまいました。

今思えば、校長先生はじめ教職員のたくさんの方々にご指導、ご厚誼をいただきこの日を迎えることが出来ました。また、学生のみなさんには、挨拶や会話を通して毎日楽しく仕事し、たくさん元気をいただきました。

「みなさん、ほんとうにありがとうございました。」感謝すると共に、お礼の言葉とさせていただきます。

### 学生課寮務係 館 よね子



待っているだけではだめだよ、先ず行動を起こし、足で稼がないといけないよ。」と教えられました。とにかく時間がある限りできるだけ関係機関に出かけて行って、担当者に直接会って行事の概要を説明し、記事にしてもらうよう頼み込みました。記者クラブだけでなく、鈴鹿市の広報課、各新聞社の鈴鹿・四日市支局、ケーブルネット鈴鹿やNHK津放送局等へ広報活動に走り回りました。何時だったか同僚の方より「NHKの朝の放送でブックハンティングの話題が流れていたよ。」と聞かされた時は、うれしく思うと同時にやればよかったとちゃんと結果がついてくるのだなと感じました。某テレビ局からウォーターボーイズの番組企画を考えているので、収録したビデオがあつたらビデオと一緒に学校要覧等を送ってほしいとの依頼があつたのも確かこの頃だったかと思えます。

平成16年4月の独法化後の7年間は、学生課の配属(図書係、寮務係)となり、限られた予算の中で学生達の生活が少しでもより良くなるようにとの思いで仕事をさせていただきました。多感な学生達に接し、その成長を見守りながらも学生達に教えられることが数多くありました。また、最後の一年間は、一つ一つの学寮行事を行いながらこれでこの行事に関わるのも最後になるのだなと思うと感慨深いものがありました。

本当に長い間大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。最初に鈴鹿高専で勤務させていただいた電気工学科も学科改組され、明るくスマートな学舎に改修されました。更に本校と鳥羽商船との連携協力も進展する中、鈴鹿高専の益々の飛躍をお祈り申し上げます。

「鈴風」より転載  
(富岡先生には会報編集にあたり書き下ろしていただきました)

## 定年退職を迎えて

私は昭和53年4月に三重大学から鈴鹿高専に転任になり、学科事務室(電気工学科、機械工学科)、会計課、庶務課そして学生課と勤務させていただきました。その間、学科等の先生方や先輩諸兄、若い同僚の方々や学生達に支えられながら退職の時期を迎えることができ、大変感謝申し上げます。

30余年も振り返れば一瞬の感がいたします。学科事務室から学科統合事務室へ、3課から2課体制になったことなど、私共の年代の者は鈴鹿高専の事務組織の変遷とともに勤務させていただいたようにも思います。

学科事務室に勤務の頃は、昼休みともなると運動オンチの私も同僚の方に誘われ、先生方や技術職員の方々とも一緒になってテニスやバレーボールに興じ、快い汗を流していたことが楽しく思い出されます。平成5年7月には会計課に配置換えとなり、総務係(共済等)や納税係(支出、給与)を担当しました。給与はその頃は既に口座振込みになっていましたが、旅費の支払いはまだ現金で手渡ししていました。担当していた支出や給与業務は電算化されていましたが、情報処理などの基礎知識はありませんでしたので、これらのシステムに大変興味はあるものの、データ処理はとても慎重に行っていました。そして、平成13年4月に庶務課に配置換えとなり、人事係の担当となりました。その頃人事事務や共済事務はまだ電算化されていませんでした。まず手書きの人事記録を業務委託して、データ化することから始まりましたが、初期の人事システムは不具合も多く、対応に大変苦労しました。

その後、平成15年10月から広報・評価担当となり、学校の広報活動を行うことになりました。その時上司より、「学校のPR活動は、ただ単に報道機関に資料だけ(主だった学校行事の資料)を送って

## 編集後記

来年は鈴鹿高専創立50周年に当たり、同窓会としても記念行事を企画していかなければなりません。そのため、まずは来年が創立50周年であることを皆さんに思い出して頂こうと、今年には会報を夏と冬の年2回発行することにしました。会長の挨拶にもありますように、皆さんのアイデアやご協力を是非お願いしたいと思っております。ご意見などを同窓会宛にお寄せ頂ければ幸いです。

また、この会報をより魅力あるものとするために、編集などのお手伝い頂ける方も同窓会へ申し出て頂ければと思っております。よろしく願い申し上げます。

北村 登 (47E 卒)

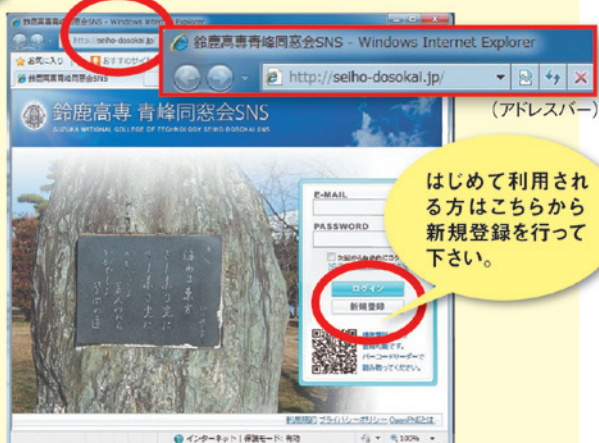
# 青峰同窓会ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) 開設のお知らせ

卒業生の皆様、お元気で活躍の事とお慶び申し上げます。さて、このたび、卒業生の皆様、教職員、および在校生を会員の対象とし、会員の皆様の間で交流深めていただきたいという思いから青峰同窓会SNSを開設しましたのでお知らせいたします。このSNSでは、登録会員の皆様全てにマイホームページを所有していただけたり、クラスやクラブ、卒業研究室単位、あるいは共通の趣味を持たれている同士など、色々なお仲間とコミュニティーを持っていただけたり、会員宛にイベント告知などができる機能があります。

まずは、下記URLより、手順に従ってご登録をお願いいたします。皆様の活発な交流がなされる事を願っています。

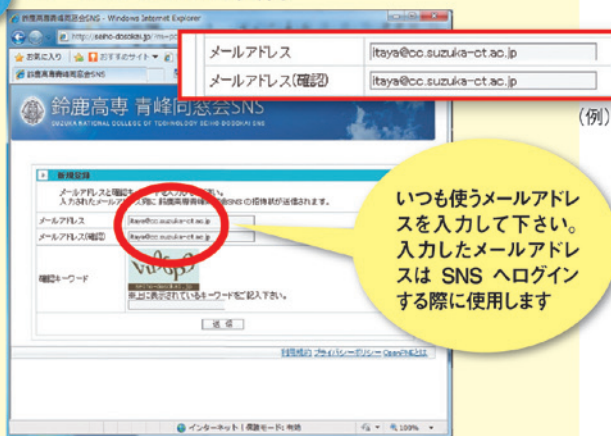
## ◆SNSの登録方法 <http://seiho-dosokai.jp/>

### 1 鈴鹿高専青峰同窓会SNSへのアクセス



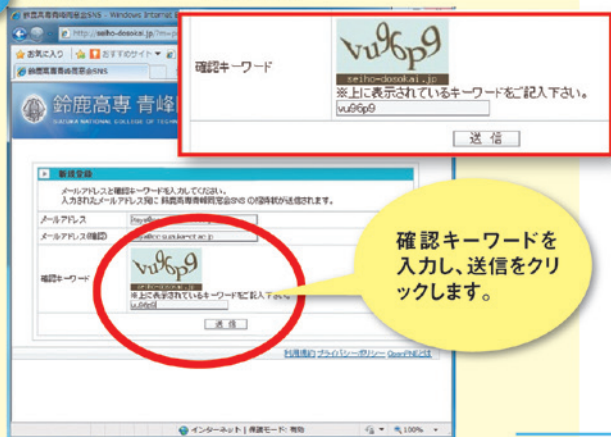
はじめて利用される方はこちらから新規登録を行って下さい。

### 2 メールアドレスの入力



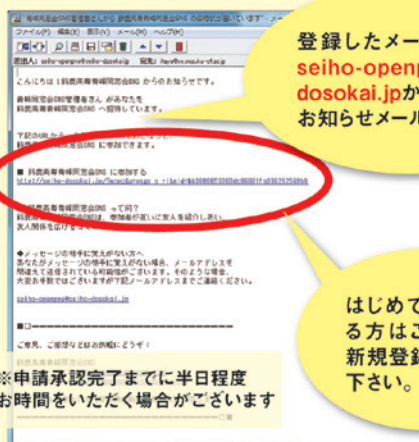
いつも使うメールアドレスを入力して下さい。入力したメールアドレスは SNS ログインの際に使用します

### 3 確認キーワードの入力



確認キーワードを入力し、送信をクリックします。

### 4 SNS招待状メールの受け取りと参加申請

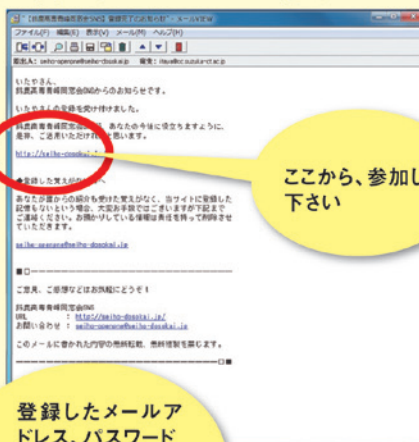


登録したメールアドレスに seiho-openpne@seiho-dosokai.jp から SNS 招待のお知らせメールが届きます。

はじめて利用される方はこちらから新規登録を行って下さい。

※申請承認完了までに半日程度お時間をいただく場合がございます

### 5 登録完了のお知らせメールの受け取りとSNSへの参加



ここから、参加して下さい

登録したメールアドレス、パスワードを入力しログインして下さい。以上となります。